

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。  
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。  
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。  
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

**エントリー学校名：佐賀県小城市立小城中学校**

**活動名：**

主タイトル 道徳の評価についての研究

副タイトル 生徒を認め励ます授業・評価

**解決すべき課題：**

昨年度より、道徳の授業が教科化され、「考え、議論する道徳」への転換が図られるようになったことと同時に、答えが 1 つではない道徳的な課題に生徒が向き合い学習していくなかで、教師が生徒の学習状況及び道徳性に係る成長の様子を記述により評価することとなった。そこで、本校では授業中での教師の発問や指導案をもとにして、評価の視点についての研究を進めていく。さらに評価方法や生徒のみとり方、生徒を認め励まし、成長への意欲を高める評価についての研究を行っていく。

また、本校の生徒に実施した昨年度のアンケートの結果、「自分にはいいところがある」という問いに対し「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と感じる生徒が 70%未達の学年もあったことから、自己肯定感、自己有用感を高める授業の研究についても実施していく。

**目標・方針：**

校内研修

- ①評価方法について理論研究を進めていく。
- ②本校の評価の視点を決め、実際に生徒のワークシートや生徒のみとり、生徒アンケートをとることでより詳細な生徒の活動状況を担任が把握しやすいものに工夫する。
- ③通知表の記述において、担任の負担を軽減する計画をつくっていく。
- ④担任だけでなく全職員が道徳教育に積極的な参画を促すために、ローテーション道徳を学年単位で実施していく。
- ⑤外部講師を招き「考え、議論する道徳」について研修する。

**活動内容：**

外部講師を招き、「考え、議論する道徳」についての講義、模範授業と授業研究会を行い、道徳授業の改善を図っていった。また、生徒アンケートを行うことにより PDCA サイクルの確立を行った。年度中盤から評価についての研修（ポートフォリオ評価の方法、生徒のみとり、数値によらない評価（観点ではなく視点）、記述方法、ワークシートからの分析の方法等）を実施し、学年を中心に研究を進めていった。（写真）11 月からは、生徒のワークシートや指導案から、本校の評価の視点について研究を進め、3つの視点「広がり・深まり・意欲」から評価を実施することになった。ワークシートと授業中の生徒のみとりから記述式の評価の実践を行ったが、先生方から「より詳細な評価方法はないか。」という、意見から、生徒へアンケートをとり、「3つの視点」のなかで生徒はどこに重きを置いて学習したのか、そのほか「印象に残った道徳授業はあったか。」また、「どのようなところがとくに印象に残ったか」等の質問項目をつくり、生徒の実態をより詳細に把握しながら評価を行うことができた。

（図 1）通知表の記述は、①大くりなまとまり②エピソードと 2 つのことについて記述することから、大くりなまとまりは生徒のワークシートとアンケートから、エピソードについては生徒アンケートを参考に担任が作成を進めていった。（図 2）

**活動の成果：**

研究の当初は担任の先生方から「評価の方法がわからない」「どのように書けばわからない」「どのような授業を展開していけばいいかわからない」など道徳の授業への不安や、担任以外との間に意識の差がみられたが、ローテーション道徳の実施、学年単位でのワークシートの検討を進めていくことによって情報の共有だけに終わらず、全職員が主体的に研修に参加することができた。また、積極的な意見交換に取り組んだ。その結果、1月に実施した生徒アンケートから、「道徳の授業は楽しい」「自分にはいいところがある」の項目において「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒が 80%を超え、教師のモチベーション向上にもつながった。

**アピールポイント（アイデアや工夫）：**

- ・評価において、生徒のアンケート内容を分析・数値化し、3つの視点（広がり・深まり・意欲）でまとめ、評価文例を作成することができた。
- ・ICT 機器を利活用し、データを整理し、作業量の負担軽減に生かすことができた。
- ・全教師が道徳授業を行うことで道徳授業への意識が高揚した。
- ・指導案・ワークシート等をデジタル化し、蓄積することにより、職員全体で情報を共有することを可能にすることで、「道徳科」の授業の質を保ったまま、全職員が授業することが可能になった。

図 1

図 2

写真